

事業実績報告書

講座番号	B-24	講座名	畜産と環境
記載日		団体名・企業名	環境カウンセラー岡本明子

〈講座全体の概要〉(300字程度)

環境カウンセラーと行く、今回のテーマは畜産と環境です。県畜産課の協力の下、講座の内容や構成を検討しました。環境に負荷を与えるとやり玉にあがることも多い畜産ですが、地産地消を目指したり、牛糞を肥料に飼料用の稲を育てたりといった努力も続いています。エサの高騰の影響を最も受けている乳牛の世界を学び、持続可能な畜産を目指す業界を知り、自分たちにできる事を考えます



※写真1の説明

名古屋市農業センターでの見学：仔牛を前に飼育員さんの説明を聞く

※写真2の説明

清水牧場での見学：新しい畜舎内を講師の説明を受けながら見学

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

今回の『環境カウンセラーと行く』シリーズ、テーマは『環境と畜産』です。人と競合する飼料、排せつ物の処理など、環境に負荷を与えるとされますが、畜産物は、人のタンパク源として必要です。円安などによる飼料費増大、担い手不足の中、あえぎながらも安全な畜産物を供給し続けています。この講座では、環境負荷軽減への努力や工夫を学ぶため、飼料代の影響を受けやすい酪農を中心に講座を組み立てました。

エサの国産化を目指し飼料用トウモロコシの開発、牛のゲップによるメタン発生を抑えるための飼料の開発までも行われています。地域の生乳で牛乳を製造、排せつ物をたい肥化して農地で利用などの環も広がっています。

講座組み立てにご協力くださった愛知県畜産課の皆様、講座を受け入れてくださった関係の皆様、心から感謝いたします。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

全体：今回、酪農の現場へ足を運びまた行政の担当者から話を聞いたことはとても有意義でした。乳牛を育て製品として出荷、加工品として店頭へ並び私たちの口に入るまで想像以上に手がかかっていることを知りました。毎日の生活に欠かせないものだからこそ関心を持って利用する、この大切さをあらためて感じました。

データ管理：首輪に個体の情報がすべて入っている。作業者の申し送りではなく、発情の状態や薬を飲んだかなど正確得ることができる。

法人化：家族経営から法人化したことで、若い人が入ってきた。労務管理もそれなりにかえていってキツイ、キタナイ的な酪農のイメージが変わっていくといいな、と思いました。

体験型：ホルスタイン牛の顔を目の前で見て、改めてその大きさに驚かされた。やはり映像ではなく、実際に見ることが大切だと感じた。